

## 令和7年度 第3回かながわコミュニティカレッジ運営委員会 会議録

○開催日時 令和8年2月25日(水) 13時00分～16時30分

○開催場所 かながわコミュニティカレッジ講義室1 (かながわ県民センター11階)

### ○出席者

伊藤 真木子 (青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科 教授)

岡野 貴代 ((公財) さわやか福祉財団 共生社会推進リーダー)

加藤 直樹 ((一社) 神奈川県専修学校各種学校協会 副会長)

齋木 真紀子 ((一社) 神奈川県中小企業診断協会 理事)

坂田 美保子 ((特非) 湘南 NPO サポートセンター理事長)

澤岡 詩野 (東海大学健康学部健康マネジメント学科 准教授)

志田 淳一 ((社福) 神奈川県社会福祉協議会地域福祉部 地域課 課長)

西 あい (公募委員)

### ○議題

- 1 令和7年度かながわコミュニティカレッジ運営業務報告及び評価について
- 2 令和8年度かながわコミュニティカレッジ運営業務企画提案 第2次審査(総合評価)について【非公開】

### ○議事内容

#### 議題1「令和7年度かながわコミュニティカレッジ運営業務報告及び評価について」

(受託事業者より資料1-1、1-2に基づき説明)

#### 伊藤座長

ただいま説明がありました議題1について、質疑・意見交換を行い、令和7年度の運営業務の評価について議論したいと思います。質問や意見等ありましたらお願いします

#### 西委員

たくさんの講座の実施、まずは本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

資料1-1の中で、どの講座も修了率が大変高く参加者の人気が高そうです。その中で少し気になったのが講座番号10「こどもまんなか社会の家庭サポート講座」だけが他と比べると若干修了率が低めに出ていると感じますが、もし理由等が分かれば教えてください。

#### 受託事業者

この講座は、参加者が14名と少なかったです。以前は(同様の講座を)平日に実施していましたが、平日の参加がなかなかできないという声があり土曜日に開催しました。今回の

参加者はお子さんを育てている若い方の参加も多く、土曜午前中の実施だったので少し欠席が多かったと感じています。出席状況を確認していないので何とも言えないのですが、修了率が下がっている原因は参加された受講生の年齢層にも要因があるのではと思っています。ただ、講座実施後の最終回アンケートの点数が高く、「今後の活動に向けた具体的なヒントが得られましたか。」の設問項目が5点満点中4.7点、「この講座で、あなたが学びたいと考えていたことを学ぶことができましたか。」の設問項目が4.5点でした。総合評価は30点満点中25.6点で、修了率は低かったですが、たいへん高い評価をいただき満足度が高い講座であったと思っています。

### 岡野委員

修了生インタビューについて伺います。修了生の生の声というのはこれから受講される方にとってはとても参考になるので、インタビュー記事載せることはとても良いことだと思います。2講座3名の方にインタビューをされたということですが、この受講生はどうやってどのような基準で選ばれたのか、また、3名はどのような基準で選ばれたのか、例えば、男女、年齢等があったら教えてください。できれば2講座だけでなく、もう少し幅広くそれぞれの分野で1講座ずつインタビューができればと感じていますが、その辺りをお聞かせ願います。

### 受託事業者

今年度のインタビュー記事はまだ完成していませんが、講座番号7「ボランティア団体の広報力を高めるための基礎講座」で受講生の方2名、講座番号8「地域でつながるあなたの第一歩“ウェルビーイングの始め方”」で受講生の方1名にインタビューを実施しました。今回はたまたまインタビューした方が全員女性でしたが、この2つの講座は今年度新しく開設した講座でしたので、インタビューをする講座に選びました。

講座番号7「ボランティア団体の広報力を高めるための基礎講座」に関してはベテランスタッフと若手スタッフが一緒に参加されていて、それぞれの活動期間や経験値に差がある中で、講座をどのように捉えているか非常に興味があったためお願いしました。

講座番号8「地域でつながるあなたの第一歩“ウェルビーイングの始め方”」に関しては、講座受講後に自主グループができ、インタビューした方は、そのグループの代表になっていただいた方です。この講座は、もともとコミュニティカレッジの受講生だった方々が「かながわリンク」という団体を立ち上げ、令和7年度に実施したものです。その講座から新たに自主グループができたということもあり、1名の方にインタビューを実施しました。

インタビュー自体がその方をクローズアップするので、講座の中身や、その後の活動、出口がとても分かりやすいためインタビュー件数も増やしていきたいと思っています。ただ、講座開催中は時間が取れず、なかなかインタビューができなく、講座が終わってからお願いして実施するため、どうしても2月3月に集中します。そのため、多くの方からお話が伺え

ないのが実状です。広報の意味も含め、もう少し増やしていけると良いと思っています。

#### 坂田委員

受講生のフォローアップのサポート、自主グループの立ち上げ等、フォローアップが大変ではなかったかと思います。報告書を拝見し大変な数だと思いましたが、フォローアップの声掛けのタイミングをどのようにされていたのか、また、講座終了後の修了生グループの立ち上げに関しては、事務局がどのように力添えをされていたのかについてお聞かせください。

#### 受託事業者

まず、フォローアップですが、講座実施団体が講座終了後にフォローアップをやりますと案内をして実施するケースがあります。講座番号 22「シニアライフアドバイザー養成講座」は講座の終わる 1 週前に講座内でフォローアップの案内をし、団体の紹介も積極的にされていました。また、講座の中で様子を見ながら団体の方と相談をして、集まる機会をつくるケースもあります。

講座番号 14「共助の地域づくりを推進する講座」は、春日台センターセンターの方にお話をいただきましたが、アンケートでセンターに行きたいという感想があり、講座実施団体と相談させていただき、先方とコンタクトをとった経緯があります。講座によって実施しない講座もありますが、実施が可能な場合は受講生にとっても良い機会になると思います。

自主グループの立ち上げについては、グループができそうだなという雰囲気もあるのですが、基本的に講座の期間中に、受講生が今後活動を継続したい場合 1 年間講義室は無料で使えます、と説明をしています。また、講座を運営している団体から声をかけたり、必要があれば講座後に受講生に残っていただき、その中で（立ち上げには）どういう手続きが必要等かを説明をしています。皆さん集まりたいという気持ちが大きいと感じています。

講座番号 12「発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座（実践編）」では、自然と皆さんでLINEを交換していました。事務局や主催団体ではなく、誰かがリーダーシップをとってLINEグループを作るなど、そのようなケースもあるので、そこに流れる雰囲気というか集まっている方たちの力もあるのかと考えています。

#### 伊藤座長

大変細やかに、また、具体的に説明いただきありがとうございます。まだ聞きたいことが出てくる感じではありますが、時間の関係で以上とさせていただきます。

以上